

【演題名】

平戸度島スタディ：島民におけるドライアイの有病率とリスク因子

【ショートタイトル演題名】

ドライアイの有病率とリスク因子

【演者】

○有田玲子¹⁾²⁾、溝口尚則¹⁾³⁾、福岡詩麻¹⁾⁴⁾、川島素子¹⁾⁵⁾、高静花¹⁾⁶⁾、白川理香¹⁾⁷⁾、鈴木崇¹⁾⁸⁾、森重直行¹⁾⁹⁾

1) LIME 研究会 2)伊藤医院 3)溝口眼科 4) 大宮はまだ眼科 5)慶應大 6)大阪大 7) 東京大 8) 東邦大大森 9)大島眼科病院

【目的】平戸度島で行われた疫学調査で、島民のドライアイ(DE)と涙液減少型ドライアイ(ADDE)の有病率とリスク因子を検討した。

【方法】6歳以上の全島民を対象とし、DEは日本の診断基準にしたがって、眼症状、涙液のBreak-up Time (BUT) ≤ 5秒、ADDEは眼症状、BUT ≤ 5秒、シルマー値 ≤ 5mmで算出した。DE、ADDEに関する患者背景リスク因子(涙液関連パラメータ、年齢、性別、身長、体重、BMI、高血圧・糖尿病・心臓病・膠原病・脂質異常症・うつ病・アレルギーなどの全身疾患、降圧薬・抗糖尿病薬・心臓病薬・膠原病薬・脂質降下薬・睡眠薬・前立腺肥大治療薬などの全身疾患内服、喫煙、外にいる時間、VDT時間)の検討をFisherの直接確率法、Logistic回帰によるオッズ比(OR)推定を行った。

【結果】6歳から96歳までの島民、384名(男:女、141:243)のうち、適切に検査が終了できた356名を解析対象とした。DEは33.4%、ADDEは5.9%だった。40歳以上のDEでは女性(OR=3.36)、結膜弛緩症(OR=2.57)、眼瞼異常所見(OR=3.16)、コンタクトレンズ装用(OR=2.84)、ADDEでは糖尿病(OR=7.74)、結膜弛緩症(OR=6.46)、外にいる時間(OR=1.27)がリスク因子として考えられた。

【結論】平戸度島でのDE、ADDEの有病率は33.4%、5.9%で、DEでは女性、結膜弛緩症、眼瞼異常所見、コンタクトレンズ装用、ADDEでは糖尿病、結膜弛緩症、外にいる時間がリスク因子として示唆された。

利益相反 有田玲子 P、 FIV (参天)

溝口尚則、川島素子、森重直行 なし

高 静花 FIV (SEED)

福岡詩麻 FIV (参天)

鈴木崇 メニコン HOYA 興和 千寿

白川理香 F IIIニコンヘルスケアサービス